

学校教育における人権教育編

実践事例

東町中学校

東町中学校の人権教育

入間市立東町中学校

1 はじめに

本校は、豊岡中学校から分離し、昭和 63 年に開校し、今年で開校 35 年を迎えた。生徒の多くは隣接する東町小学校からの入学で、小中で 9 年間、保育園や幼稚園を含めると更に長い間、変わらぬ人間関係で過ごしている。保護者・地域の教育に関する関心は高く、自分の子どもが卒業した後もボランティア等で関わる人が多い。



本市の教育行政の特色の一つである小中一貫教育については、東町小・中学校がモデル校となり、平成 24 年度より取組が開始され、現在に至っている。

2 本校の人権教育計画について

(1) 学校教育目標

「自立できる生徒の育成」

(2) めざす学校像

「生徒に 3 つの力がつく、生徒・保護者・地域から信頼される学校」

- 入学前には憧れ、在学中は安心でき、卒業後は誇りに思える学校
- 共通行動・協働の下、組織的に生徒を成長させる働きがいのある学校
- 保護者・地域の拠点となり、安心安全で親しみをもたれる学校

(3) めざす生徒像

「自立のために、自律できる生徒」

- 高い志をもち、目標に向け努力できる生徒
- 真善美を愛する心をもつ生徒
- いつでも、どこでも、当たり前のことを当たり前でできる逞しい生徒

(4) 人権教育目標

- ①生徒の心身の発達に応じ、すべての教育活動を通して人権尊重の精神を育てる。
- ②同和問題など様々な人権侵害における不合理性を認識し、自らの生き方において、これを許さずになくしていこうとする態度を育てる。
- ③自他の生命を大切にし、他者の痛みを共有し合い、生徒が互いに人間として尊重しあえる豊かな心を育てる。
- ④日常生活に存在する差別に気づき、人権についての正しい理解と問題を解決しようとする実践力を養う。

3 本年度の取組

(1) 専門家による講演会

LGBTQ 講演会「LGBTQ について考え、人権問題への関心を深める」

- 1 目的 人権問題に関心を持ち、人権課題を解決していくための力を育むためのきっかけとして、講師の方を招いて講演していただく。また今回は、『性』をテーマとし、性と人権との関連からいじめや差別をなくすための取組に向け、LGBTQ を通して考えさせる。
- 2 日時 令和4年10月26日(水) 13:40~14:40
- 3 会場 東町中学校 体育館
- 4 対象 東町中学校生徒 1年生60名、2年生79名、3年生66名
- 5 講師 株G-pit 代表取締役 井上 健斗 氏

○本年度の人権教育目標の達成に向け、本校では初の取組となる「LGBTQ 講演会」を行った。講師の井上氏をお招きし、「性的マイノリティ」「LGBTQ」について学ぶことや、それらに対する人権差別、性的マイノリティの悩みや不安について考える機会となった。井上氏自身が性的マイノリティの当事者であり、2010年にバンコク



で女性から男性への性別適合手術を受け、その後戸籍変更もしている。また、これまでの自身の体験をもとに生徒たちに語りかけるように話をし、当事者として今までに受けた苦痛や葛藤などをともに考え、感じさせるような講演であった。

講演後の生徒の感想では、「自分の身の回りに井上さんと同じ境遇にある人がいるかもしれない」「その人たちが否定や差別をされないよう自分の考えを改め、住みやすい社会になるよう協力していきたい」や、「もし自分に打ち明けてくれた友人がいたら、まずは私を信じて話してくれたことへの感謝を込めて、『ありがとう』と伝え、その人の力になりたい」など、当事者に寄り添うような感想が多く、人権問題への関心や解決に向かっていけるような考えを深く持つことができた。また、「自分が同じ境遇にあり、講演を受けたことで自分だけではないことや、周りが自分の気持ちを考えてくれることが分かり、とても安心した」と述べる生徒もいた。



(2) 人権作文

趣旨 次代を担う中学生が人権問題についての作文を書くことによって、人権尊重の重要性、必要性についての理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身に付けることを目的とする。(埼玉県人権作文実施要項より)

内容 日常の家庭生活、学校生活、グループ活動あるいは地域社会との関わりなどの中で得た体験等を通じて、基本的人権の重要性、必要性について考えたことなどを題材とする。(埼玉県人権作文実施要項より)

○人権作文を書くにあたり、道徳の授業で全校生徒に、人種差別・部落差別・感染症による差別・インターネットによる差別等、様々な人権問題について学び、考えさせたいうえで取り組ませた。またその中でタブレット端末を使い、自分が向き合う人権問題について調べたり、友人と話し合うことで考え学び合い、より内容の濃い人権作文を書くことができた。

(3) 小中一貫教育を活かした人権教育

○本校は、隣接の東町小学校出身の生徒がほとんどで、交流も深く、小中一貫教育の視点から、人権教育にも努めている。

指針 ①確かな学力の向上とよりよい人間関係づくりを通し、児童生徒の豊かな人間性の育成を図る。

②9年間の成長を見据えた教育を通して児童生徒の見方を深めるとともに、小・

中学校のそれぞれの指導の良さを真摯に学び、教員の指導力の向上を図る。



小中一貫教育の行事一覧

| 実施内容 | 概要 | 実施期日 |
|-----------|---|------------------------------------|
| 1 あいさつ運動 | 児童生徒、職員が登校してくる児童生徒に挨拶を交わし、見守られているという安心感を醸成する。 | 5月6日、7月6日、8月30日、10月26日、11月30日、3月8日 |
| 2 合同花植え | 彩の森公園前信号の花壇を小学生と中学生が整備する。 | 6月22日、10月26日 |
| 3 合同一斉下校 | 生徒が児童の下校班と共に下校する。 | 7月4日 |
| 4 中学校体育祭 | 中学校体育祭のPTA種目に6年生が参加する。 | ※本年度は未実施 |
| 5 小学校運動会 | 中学校吹奏楽部の演奏で入場行進を行う。部活動が片付けを手伝う。 | ※本年度は未実施 |
| 6 合同ミニ合唱祭 | 中学校3年生が小学校高学年と歌を介して交流する。 | 11月15日 |
| 7 部活動見学 | 6年生が、中学校全部活動の見学をクラス単位で行う。 | 1月27日 |

| | | |
|-----------|--------------------------------------|----------|
| 8 1日入学 | 6年生が中学校に1日体験入学をし、授業を受ける。中学生が学習支援を行う。 | 2月8日 |
| 9 合同茶会 | 中学校1年生が小学校6年生を茶道でもてなす。 | ※本年度は未実施 |
| 10 学習サポート | 中学校3年生が小学校へ行って学習支援を行う。 | 2月22日 |
| 11 小学校卒業式 | 中学校生徒会長が小学校へ祝電を送る。 | 3月23日 |

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、未実施とした。



この取組は、主に小学校5、6年と中学校1年における指導のつなぎを意識し、中1ギャップを減らすことを目的とし実施している。

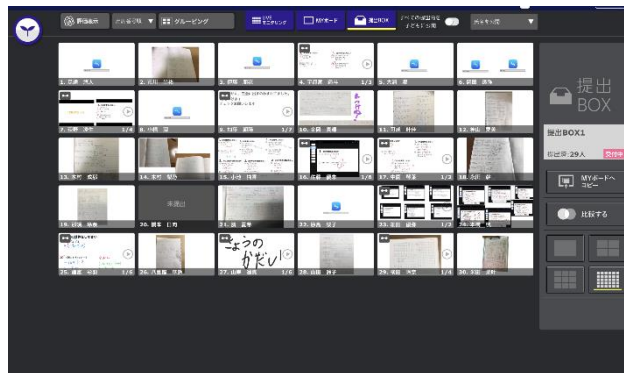
この活動により、小学校から中学校に進学する際の不安を減らし、早い段階でより良い学校生活が送れるようになったと感じる生徒が多くなっている。また、中学生が小学生のために考え、主体的に活動できる場面が多くなり、生徒の主体性の向上も見られることができた。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策で実施することができなかったが、この他にも各教科で行われる「小中一貫教育授業交流会」や、「小中一貫教育関連職員研修」が行われるほか、PTAによる小中一貫の取組も行われている。



(4) ICTを活用した長期休業中の課題

本校では、GIGA スクール構想の実施に先駆け、校内外問わず学習できる環境を整え、タブレット端末を活用した取組に力をいれている。その中で1年生では、長期休業中の数学の課題提出に取り組んだ。個を大切にする取組として、以下のように行った。



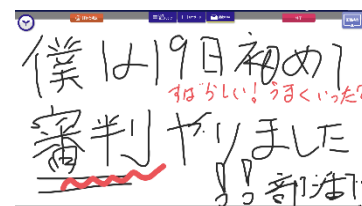
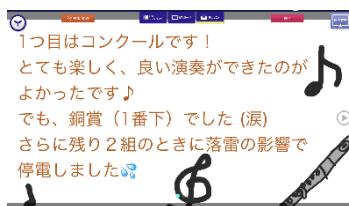
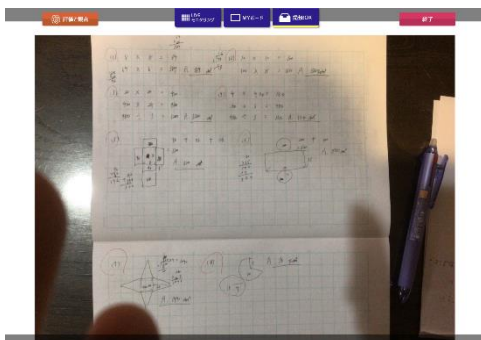
- 1 目的
- 長期休業を活用し、家庭学習の習慣をつける。
 - 学業不振の生徒に対し、学習への不安を減らすため、基礎基本を中心に既習の内容の補習を行う。

- 長期休業中でも課題のやり取りを行うことで、学校との繋がりを保つ。
- 長期休業を活用して、自分の進路と向き合う時間をつくる。
- 教員・生徒ともに ICT にふれる機会を増やし、GIGA スクール構想の環境を更に整えていく。

| | | |
|---|----|---|
| 2 | 日時 | 長期休業期間中 |
| 3 | 場所 | 東町中学校生徒 各家庭 |
| 4 | 対象 | 東町中学校生徒 1年生 60名、2年生 79名、3年生 66名 |
| 5 | 内容 | <p>1年生 平日朝 9:00 にタブレットのアプリ「オクリンク」で数学の課題を提示し、その課題をタブレットやノート等で行い、写真を撮って提出する。</p> <p>2年生 タブレット端末を活用して上級学校調べを行い、来年度に向けて進路に関する情報や自分の進路先と向き合い、新聞を作成する。</p> <p>3年生 長期休業を利用し、これまでの既習内容の復習を Zoom を活用して授業形式で行う。</p> |

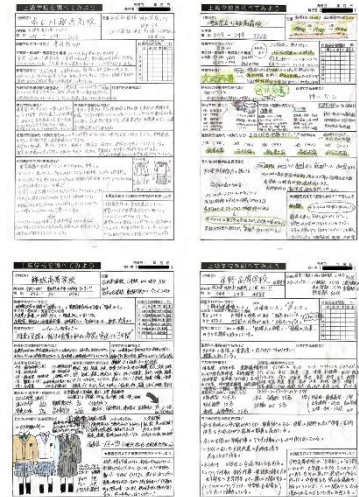
1 年生

課題の提出方法には、生徒が提出しやすい方法で行わせた。取組については、よくできている生徒が多かったものの、解答を見てもわからない生徒がいたため、提出されたものにポイントやコメントを残してやり取りをすることができた。内容も数学の問題だけでなく他の生徒の課題の取り組み方や、解き方・書き方の良い所を評価させたり、日常生活について、好きなことを見つけたり、身の回りのバリアフリーについて考えさせる内容等の課題も行わせることができた。このような課題に対しては、日頃の問題を解くだけではないため、意欲的に取り組むことができた。特に学業不振の生徒は自分の思うようにレイアウトしたり違った考えが見られた。また課題とは別に、部活の時間やプライベートでの思い出を付け加えた生徒や、悩みや不安を相談してくる生徒もあり、多方面で生徒の生活の支えにすることができたと感じる。



2年生

2年生後半になると、自分の進路と向き合う活動が増えてくるため、どの生徒も積極的に取り組み、良い新聞を作成することができていた。特に家庭内でインターネット環境が充実していない生徒に関しては、パンフレットや学校から配布される資料のみでは不十分な面もあるため、タブレット端末を効率的に活用し、学びに繋げることができていた。



3年生

受験を控える3年生に対しては、受験対策を考えた補習や復習をZoomで行い、受験への不安を減らせるよう取り組んだ。またZoomの中で生徒とのコミュニケーションを取ることで、生徒の様子をうかがうことができたり、授業内容を撮影することで生徒がいつでも見直せる環境をつくることができた。

(5) 人権アンケートの実施

- 1 目的 東町中学校いじめ防止基本方針より、いじめの実態把握のために学校生活を含めたいじめに関するアンケートを「人権アンケート」として行い、いじめの未然防止、早期発見・対応や、人権に基づいたいじめに対する理解を深めさせ、生徒が安心して学校生活を送れるようにすることを目的とする。
- 2 日時 各学期1回
- 3 場所 東町中学校
- 4 対象 東町中学校生徒 1年生 60名
2年生 79名
3年生 66名
- 5 内容 いじめやからかいについて、自分が受けたことや身の回りで受けた人を見かけたことに対する質問や、それらに対する自分の考えを問うアンケートを行う。また、いじめに対するアンケート内容に1つでも「ある」と答えた場合は、早急に担任から聞き取りを行い、早期発見・対応に努める。

東町中学校 1学期 人権・生活アンケート

実施日 令和4年 月 日()

このアンケートは、みなさんが安全・安心に学校生活が送れるようにすることを目的としています。真実項目に対して、あてはまるものに○をつけて書き下下さい。

令和4年4月1日()～6月30日()の期間で書えて下さい。

| | | | |
|---|---|------|------|
| ① | ・地やかしやからかい、悪口(悪口)を書かれる事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ② | ・無視されたり、仲間はずれにされたりする事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ③ | ・自分の持ち物が壊されたり、勝手に使われたりする事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ④ | ・罰金かたり、罰られたり、わざとぶつられたりする事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑤ | ・お金等を要求されたり、嫌なことを無理矢理やらされたりする事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑥ | ・授業中に邪魔ったり、つまづいたりするとバカにされたり、しらけるような態度をせられる事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑦ | ・家で学習すると昔や給食の時間に机を蹴されたり、無視するよう態度をせられる事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑧ | ・あなたの悪口をメールで送られたり、ネット上に書き込まれたりする事がありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑨ | ・あなたは同級生にいやな思いをさせたことがありますか。(※上記のような行為) | 1・ある | 2・ない |
| ⑩-⑬の質問で「ある」に○をつけた場合は、状況を具体的に(何・誰に・どう)に書いて下さい。 | | | |
| ⑩ | ・あなたは悪口がけいめられたり、からかわれている事を感じることがありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑪ | ・もしあなたがそのいじめを見たらどうしますか。(一つ選んで○をつける) ア) 加わって一緒にいじめ。 イ) 黙っているけれど、いい意味だとと思う。 ウ) だにやってみて見極めをする。 エ) 友達や先生に報告し相談する。 オ) 「やめろ」など止める言葉をかける。 カ) 自分からとびこんでやめさせる。 キ) その他() | | |
| ⑫ | ・あなたのクラスに「いじめ」はあると思いますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑬ | ・あなたのクラスで「仲間はずれにされている人」を見ることがありますか。 | 1・ある | 2・ない |
| ⑭ | ※「ある」と答えた人はその理由を教えてください。(一つ選んで○をつける) ア) 何も感なかった。 イ) 可哀そうだと感じたが得しなかった。 ウ) 勇気はなかった。 エ) 仲間に入らなかつた。 | | |
| ⑮ | ・あなたは嫌ったと昔に誰に相談しますか。(複数に○をつけてよい) ア) 友達 イ) 先生 ウ) 親 エ) その他(氏名など) オ) 相談しない | | |

()年 ()組 ()番・氏名 ()

各学期内でこのアンケートを行うにあたり、「いじめ」と「人権」がどのような関連があるのか、また、いじめによりどのような

人権の侵害に繋がってしまうのかを指導する。さらに生徒自身に生活を振り返らせ、間違った行動に気づかせることや、自分の行動で救われる人がいることを自覚させ、身の回りで気になっている行動に対し、自分にできることを考えさせる時間を設ける。本年度のアンケート結果では、他者からのからかいを受けたり、物を隠されたり等の被害についての内容がいくつかあったが、特にクラスの生徒がこれらのようなことを受けている場面を目にしたことについて記入がよく見られ、いじめについての理解がある生徒が多いと感じた。また、その内容から聞き取りをしたことで、いじめの実態を把握することができ、いじめの早期対応に繋げることができた事案もあり、生徒のいじめに対する理解の更なる向上も含め、今後校内でより一層力を入れて取り組んでいきたいものであった。

4 成果と課題

(1) 成果

- 本年度初の取組であった「LGBTQ 講演会」に関しては、専門家を招きお話しただくことで、教員のみ知識だけでなく専門的でわかりやすい講演を通して、生徒にとって深い学びになったと感じた。またこの講演会を行うにあたり、あらかじめ LGBTQ に関する用語や意味など、基本的な知識を道徳の時間に学ぶ授業を設けた。そのために教員同士で資料の共有を行い、互いに他教員の道徳の授業を見学したりと、生徒と同じように学ぶ機会をつくることができた。
- 長期休業中の取組については、ICT を活用した新たな形の課題になり、今後試行錯誤を重ね取り組むべき課題であると感じた。特に長期休業中に合う回数の少ない生徒や、長期休業明けの心配がある生徒に対しては、学校との繋がりを保つことができるため、更に生徒の成長を見守ることができると考える。今回の使用方法に限らず、Zoom を使用した長期休業中クラスミーティング会やその他のアプリを使用した活動など、長期休業中の ICT の使用方法の幅が広がることで、GIGA スクール構想がより充実していくと考える。
- 人権アンケートや小中一貫教育等継続して行っていく活動については、更なる改善を心がけ、生徒が主体的に活動できる場面を増やしていきたい。

(2) 課題

- 今年度の取組は、新型コロナウイルス感染症対策を考慮した内容のため、規模の縮小や活動の削減を考える必要があった。これからの時代を担う子どもたちを育成するためには、人権教育は多方面で必要不可欠なものであると考える。教員が日頃から人権に対する知識を深めるとともに、専門家を呼ぶことで新たな知識や考えを育んでいくことで、子どもたちの人権に対する関心や理解が更に高まっていくと考える。
- ICT の更なる活用や、小中一貫教育の充実、家庭・地域との連携を図ることで、新たな人権教育の形を生み出すことができる。まずは教員が生徒一人一人を大切に、日々研修に努め、更なる人権教育の充実に尽力していきたい。